説明・意見交換会の主な質問等に係る回答

阿久根市教育委員会

Ⅰ　統・廃合の学校の在り方

１　複式学級にはよさもある。統・廃合を行えば、大人数の学校生活に困り感を抱く児童生徒も出てくると考える。子供のことを考えるのであれば、どちらがどうと言えないと思うが、どのように考えているのか。

⑴　小規模校・複式学級について、「教員が一人一人の子供たちに接する時間が多く、細かな対応ができる。」「教育活動の中で一人一人の子供たちの出番が多い。」など、利点については理解している。
⑵　課題として、これからは多様な価値観や色々な考え方について、子供たち同士で発言したり、聞いたりして主体的・多面的に考えるなどの力を身に付けることが求められている。小規模校の子供たちも先生方も一生懸命に取り組んでいるが、このような課題については対応が難しい。
⑶　教育委員会としては、子供たちがこれから求められる力を身に付け、様々な課題等にしっかり対応できるよう、複式学級のある小規模校については、統・廃合を進めていきたいと考えている。
⑷　学校の統・廃合については、各地区の保護者・地域住民によって意見等が異なることから、個々の小・中学校の状況等に応じて進めることとする。また、保護者・地域住民への説明・意見交換会を開催し、協議等を行いながら進めることとする。

２　今回の基本方針で存続する小規模校の小学校は、北に位置する折多小学校と脇本小学校だけである。南側や山手側に位置する小規模校を残すことは考えていないのか。
また、どうしても小規模な学校への就学を希望する保護者等の要望を考えて、いくつか小規模校は残してほしい。

⑴　令和５年度も、南側や山手側に位置する小学校は、全て複式学級のある学校となっている。（田代小と尾崎小は、現在休校中）
⑵　本基本方針は、今後も減少する見込みの児童生徒数、学級数を考え、複式学級の解消を主な目的としていることを御理解いただきたい。
⑶　学校の統・廃合については、各地区の保護者・地域住民によって意見等が異なることから、個々の小・中学校の状況等に応じて進めることとする。
⑷　学校・保護者・地域住民と教育委員会で意見が、今後，統・廃合の方向でまとまった学校については進めていきたいと考えている。

３　近隣校、山手側の統・廃合など、段階的な統・廃合は考えられないか。

⑴　本基本方針は、複式学級の解消を主な目的としている。
⑵　御意見のような段階的な統・廃合についてもシュミレーションを行ったが、複式学級は解消されないところである。
⑶　また、どの学校と統・廃合するかが大きな課題であり、一部の学校に意見を伺ったが，賛同は得られなかったところである。
⑷　学校の統・廃合については、各地区の保護者・地域住民によって意見等が異なることから、個々の小・中学校の状況等に応じて進めることとする。
⑸　学校・保護者・地域住民と教育委員会で意見が、今後、統・廃合の方向でまとまった学校については進めていきたいと考えている。

４　新しい小学校は、現在の阿久根小学校ではなく、旧県立阿久根高等学校の跡地を考えないのか。

○　当初の基本方針では、旧県立阿久根高等学校跡地を候補地として考えたが、次の理由等により、現在の阿久根小学校を活用することに変更した。

（理由等）

・　阿久根小の活用について改めて検討した結果、課題の一つである教室の不足については、校舎の改修等を行うことにより必要な教室が確保できる見通しが立ち、一定の教育環境の改善も見込まれる。

・　これまで開催した保護者や地域住民への説明・意見交換会で、当該校区を中心に、今後も阿久根小を活用してほしいと言った意見が多く出された。

・　再度検討した時点では、コロナ禍で困窮していらっしゃる事業者の方々等への支援の緊急度が高く、早急な対応等が求められていたこと、市の安定した財政運営，市の主要事業等も踏まえ、総合的に判断した。

５　新しい小学校についての情報が少ない。どのような特色や課題があるかなど、分かる範囲で教えてほしい。

⑴　阿久根小学校の現況等について（別紙参照）

⑵　教室の不足について

・　校舎の改修等を行うことにより、必要な教室が確保できる見通しが立ち、一定の教育環境の改善も見込まれる。

（改修の時期）Ｒ５：２０号棟　Ｒ６：　号棟

⑶　校舎の老朽化について

・　長寿命化計画により、年次的に実施する。（令和５年度：２０号棟）

⑷　学童クラブの確保について

ア　現時点では、学校内に空き教室がないことから、現在の学童クラブを活用する。

イ　児童数・学級数の減少により、空き教室が生じる見込みであり、その時点で学校内に確保する。

⑸　駐車場の確保について

ア　学校行事等へ参加される保護者のほとんどは、新港に駐車をされている。

イ　現在、小学校周辺の民有地について、駐車場として借用できないか相談等を行い、令和５年３月末現在、６か所を確保している。

ウ　今後も、継続して駐車場の確保に努めたい。

Ⅱ　児童生徒への配慮

１　学校の統・廃合は、子供にとっても不安であるので配慮してほしい。

⑴　環境の変化は、低学年であればあるほど影響が大きいと考えることから、きめ細かな手立ては必要であると考える。

⑵　現在行っている少人数指導の充実、特別支援教育支援員の配置等は、今後も継続していきたい。

⑶　令和５年度から、阿久根小と阿久根中に市自立支援教室を新設するとともに教員免許状を有する学習指導支援員を配置し、児童生徒の困り感等に対応できるようにしている。

⑷　それ以外の手だてについても、継続して検討していきたい。

２　小規模校の児童生徒が、大人数の学校に就学するとなった場合、在籍する学級が異なると不安になると思う。統・廃合になった場合、１年間は同じ学級にするなどの配慮をしてほしい。

○　そのような意見・要望があることを学校へ伝え、可能な限り配慮したい。

Ⅲ　特認校制度

１　特認校制度について、どのように考えているのか。

⑴　現在、「特認校制度」を導入している学校については、継続して適用したい。
⑵　統・廃合を実施した後についても、存続する学校に適用したい。

２　新しい小学校（阿久根小学校）ではなく、少しでも児童数の少ない小学校に就学させたいと考える。現在の基本方針では、折多小学校と脇本小学校が存続することになっているが、校区外からも就学できるのか。

⑴　「特認校制度」については、存続する学校（ただし，阿久根小学校を除く。）に適用したい。
⑵　今後は、折多小学校や脇本小学校への適用も考えており、この制度の活用により、校区外からの就学も可能にしたい。

Ⅳ　通学支援

○　通学支援については，どのように考えているのか。

⑴　現在，通学支援については、公共交通機関があるところは公共交通機関で、それ以外はスクールバス等で通学できるようにしており、今後も同様の対応としたい。
⑵　小規模校の児童生徒で、新しい学校への通学になる児童生徒については、通学

Ⅴ　通学区域

１　折多小学校の中学校区は３つに分かれるが、どのように整理するのか。

○　鶴川内中学校の統・廃合の方向性が決定するまでの間、折多小学校の児童については、原則として、鶴川内中学校へ進学することとする。
　また、三笠中学校への進学を希望する場合は許可することとする。その際、送迎等は保護者対応とする。

２　通学区域を変えることで、小規模校の学校に就学する児童生徒も増えるのではないか。通学区域の見直しは検討できないのか。

⑴　通学区域の見直しについては、平成 17 年度の学校規模適正化の時から検討してきていたが、それぞれの区の調整が難しかった。（例えば、Ａ小学校のａ校区はＢ小学校に近いが、Ｂ小学校のｂ校区はＡ小学校に近いなど）
⑵　本基本方針は、市全体の教育環境の確保、児童生徒数の減少などを見通した中での計画であることを御理解いただきたい。
⑶　学校や通学区の変更は、現在,「阿久根市小規模校入学特別認可制度（特認校制度）」や「阿久根市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則」で対応できることから、その際は、教育委員会へ御相談いただきたい。

Ⅵ　学童クラブ

○　学童クラブは、新しい小学校になった場合はどのようになるのか。

⑴　現時点では、学校内に空き教室がないことから、現在の学童クラブを活用することになる。
⑵　児童数や学級数の減少により、空き教室が生じた時点で、学校内に確保したい。

Ⅶ　医療的ケア

○　医療的ケアを必要とする児童生徒もいる。将来的に学校に看護師を配置することは考えていないか。

⑴　医療的ケアを必要とする児童生徒とは、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童生徒であり、そのような児童生徒が入学する場合は、看護師の配置等を含めて検討する必要がある。
⑵　県内では２市町で看護師を配置しているが、いずれも市町独自で配置しており、予算確保が必要となることから、就学時健診等も含めて情報収集に努め、適切に対応ができるようにしたい。

Ⅷ　その他

１　いじめ等の理由で不登校になる子供もいる。そのような場合、学校を変わって解消する方法もある。そのような学校も必要ではないか。

⑴　いじめについては、しっかり対応する必要があると考える。
⑵　いじめの問題については､小さい学校だからいじめが簡単に解決できるとか、大きい学校はできないとかという問題ではない。要は、そのような兆候を早く、一つでも多く発見し、対応して解決することが大切である。
⑶　現在、本市の各学校では、全校態勢でいじめ等をはじめ、子供に係る諸課題の把握、解決に取り組んでおり，不登校につながるような深刻な課題はないところである。
⑷　学校の在り方については，御意見のような課題も含め，総合的に検討する必要がある。

２　阿久根市も人口減少が加速している。阿久根市の地域で人口を増やす対策を取れば、この統・廃合の問題も解決するのではないか。

⑴　阿久根独自の教育を推進することで教育のまちづくりを進め、教育でも人口を増やせるようにしたい。
⑵　閉校した学校を利用して、地域が活性化している事例もあることから、そのような取組についても検討していきたい。

３　小規模校の保護者や地域住民は、学校への思い・意見等は同じであると思うことから、小規模校だけの意見交換の機会を設けてほしい。

⑴　そのような意見があることについて、他の校区でも取り上げ、開催の方向でがまとまるのであれば調整したい。
⑵　現在開催している校区単位の保護者・地域住民への説明・意見交換会については、今後も継続して開催していきたい。